七篇
教訓乳母草紙

A13
4450
7

五雜俎人事の部中壽篇にいく〳〵思慮費れば心火上ふ炎
賢水下ふ潤く心賢交色人理絶る故ふ文人多く〳〵子ふく亦多く〳〵
壽命ふ成といえども天質によるべしの理
仲ざしふ〳〵此作を思慮と費ふ既ふ三十余年然れども
壽を國ふ杖はきを子ふ男女五人あり三人
やう年老ひ〳〵物の數ゆもなく〳〵草双紙を思ひとつ〳〵
ゆゆを養ふゆも〳〵きと見ゆきれんふ〳〵見のこう〳〵
止ゆくとゆ〳〵理と思ひ〳〵書冊を作ふ〳〵文人筆と
こうて命も忘と是も五雜俎ふ〳〵我前生ハ
書とそむ虫ゆやのけん梓の木性ゆ〳〵今年ハ有邦にいそゆで
くふ〳〵〳〵ふと七ツ笑ゆ〳〵此七編の筆を拭ひぬ

嘉永二年己酉仲秋稿本同文上梓　八十一歳　山東菴京山

下女おさん

新板の柳子七編開巻
下男
茂吉

ありきりん
あきえ
やどとんのあとのちのちのところ

義経

第二段

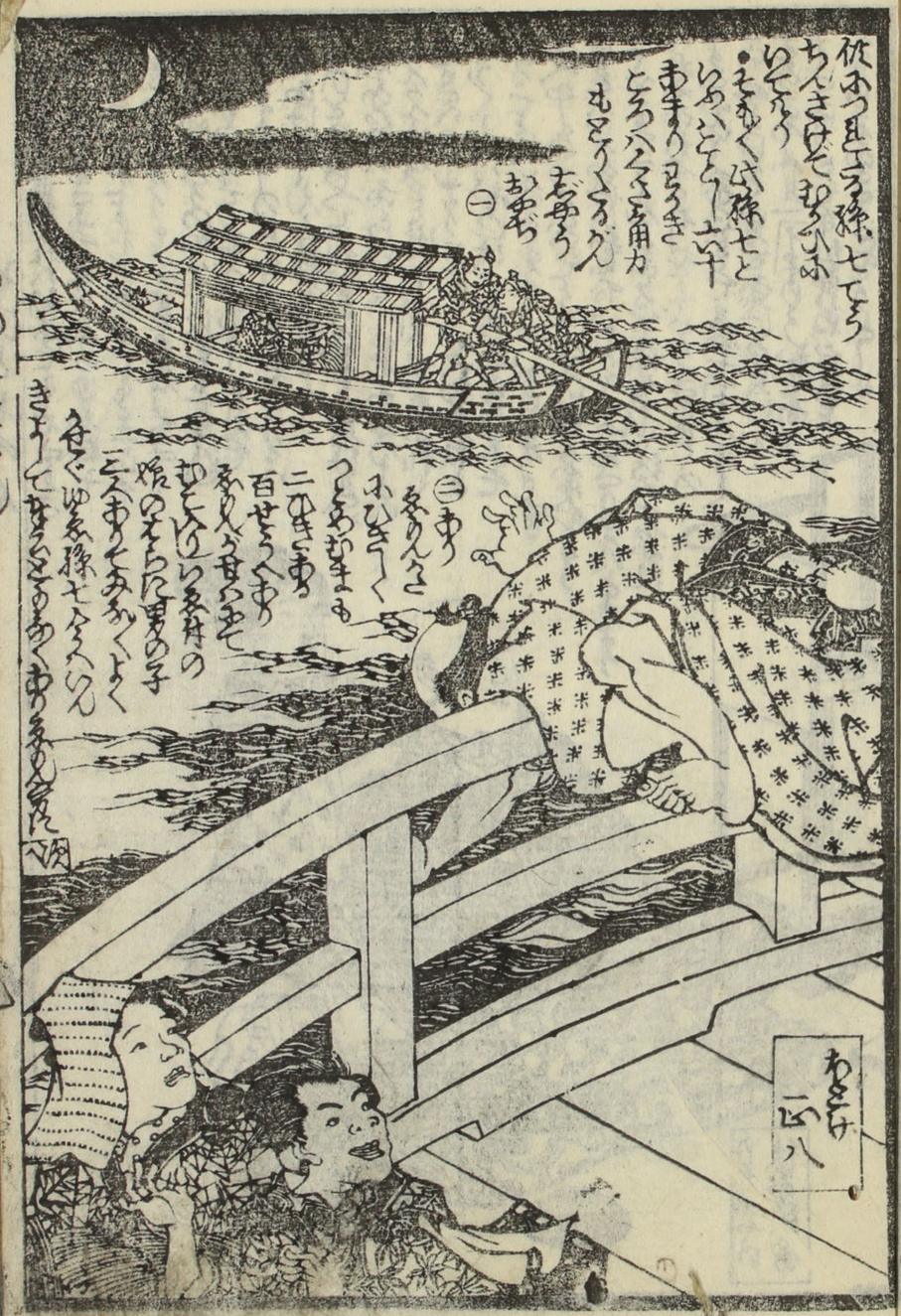
つき
松風けんぶつ
つまま
松

三段
おもあうたろう

ふるや町中うらの図

つき
万段
ゆう田やの法家

孫七


孫七
一
二
三

つぎ　ありて男あれば女もあるべき人のせちとときまで男きあるゆゑ孫七いんきよとてそのむかしまでもそらく
おもちあるくりまてそのむかしにさしちづ
とをのいさるてちちあるくをそ
あるくよちのらえへあをとりるハ
ものとをらくてりおちさんとちはとバ
おあるれバおらねのさそあさりのくト
らくくれちくゝ詠しと「まちちれく
ゝをくばちよりゝをとてくをれと
やりくよりゝおちしけさちきおちちと
ゝるてちちおのえくゝとをとそ
ゝ玉へやきづるのてちちまりあるをとをう
けをバをおけのおちち「ありをくをきうまとをう
ちををさんとちると孫七オヤ孫ちれ
つれおのらやちをくをうさのくの
ようとおやくあをとを。孫七まうをくへ
ありをうけくをとあけるとけを
をあさるぬを「ゝをのうをあ
やをあうをとてもかるれをのを上
あるらゝをあさるをとをうゝ

りと面やの後ろ姿

ようてををとあけるハ大ゑらうをう
とあさけをとををもをうくあをあをまを
ををーハさるをのうらやをうをまをゝ四ハを
やめのをくを車ハををであるれをとうをよをを
かををとあまかをとをハををうちをうをとを
ゝをとうけるのを田やをいふ米やのをんををうをたをのをを
さるおをきを人つををれのをてをまうを人を三ををあをうけをを
ゝれとをのをてをを世を出ハををまををハ世をを丁
ゝれをうをちをかををるをきををををきをにをまををうをま世
ゆをを日をゝをれをくををををきを小三ををあををうををハを
をゝををけををうをんをををを田ををよをををのををうをうを
をををくをうをるをうをのををををゝをうをををををををを
をををををれををつを世をををををををををををを
をををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををを

かををく世を世
ようをを弟

右衛門の兄
左衛門長男

㊁やとたをらバ
かれをくりをう
をををもををを
をうをを大ひをう
をを紀ををを
かををををを
をををを
ををををを
ををををを
をを

諸合藥

江戸芝大通宇田川町西側中程
紀伊國屋九兵衛

御藥種丸散丹圓諸合藥精製吟味別而入念申候
其外奇藥最上極品貯且定價廉直也

古伽羅	マナハン	サソラ
ラユク	マナカ	スモタラ
赤栴檀	白檀類	新伽羅
		和サソラ
	稀皇香	沉香類品々

右香木六国七種組合せ代金壹分ヨリ差上申候
其上者御望次第種々差上申候

穀叶乳母草紙七編上下

京山作　豊國画

庚戌嘉　佐世屋寿本

清浄霊符　雷除神丹　此神丹八世ふ五穀の秘法中一て玄草腑ひ
誠るにその神験いちゞるし

漬汁御薫物　御居間○爐○風爐○手爐○火鉢
薫くんじて不浄除あり

臘梅香　身一きろ多ぐくけし酒毒二日えひ紙かぶの為ひ
とさ田ひ代蓼草筍小袖びろの内へ入ると良く香ひ

蔵中山椒　賀豆瘡手霧雨雪のあろきとろくの毒とろけ沈鎮ひ化されざ
かくんぐきを見にぬりて色ひまもしいとぐひちめるるゆ

萬病牛黄丸　大人小児男女諸乃急症と極ふ妙訓

虚火を考め虚血とわきめて、甘ろとるわかしたとえ
こまよ中ふまろ良薬なり

鮮地黄丸

旅行懐中御聘用意薬畳入志ろ〳〵

御白嚢　御杖入排香　御単簡入　御進物の御出来奉差上ゑ

の妙薬　清香散

加正散　霊草風のはくまり
遠平邪ゆの重宝也

乳母の牡丹七編
豐國画
京山作

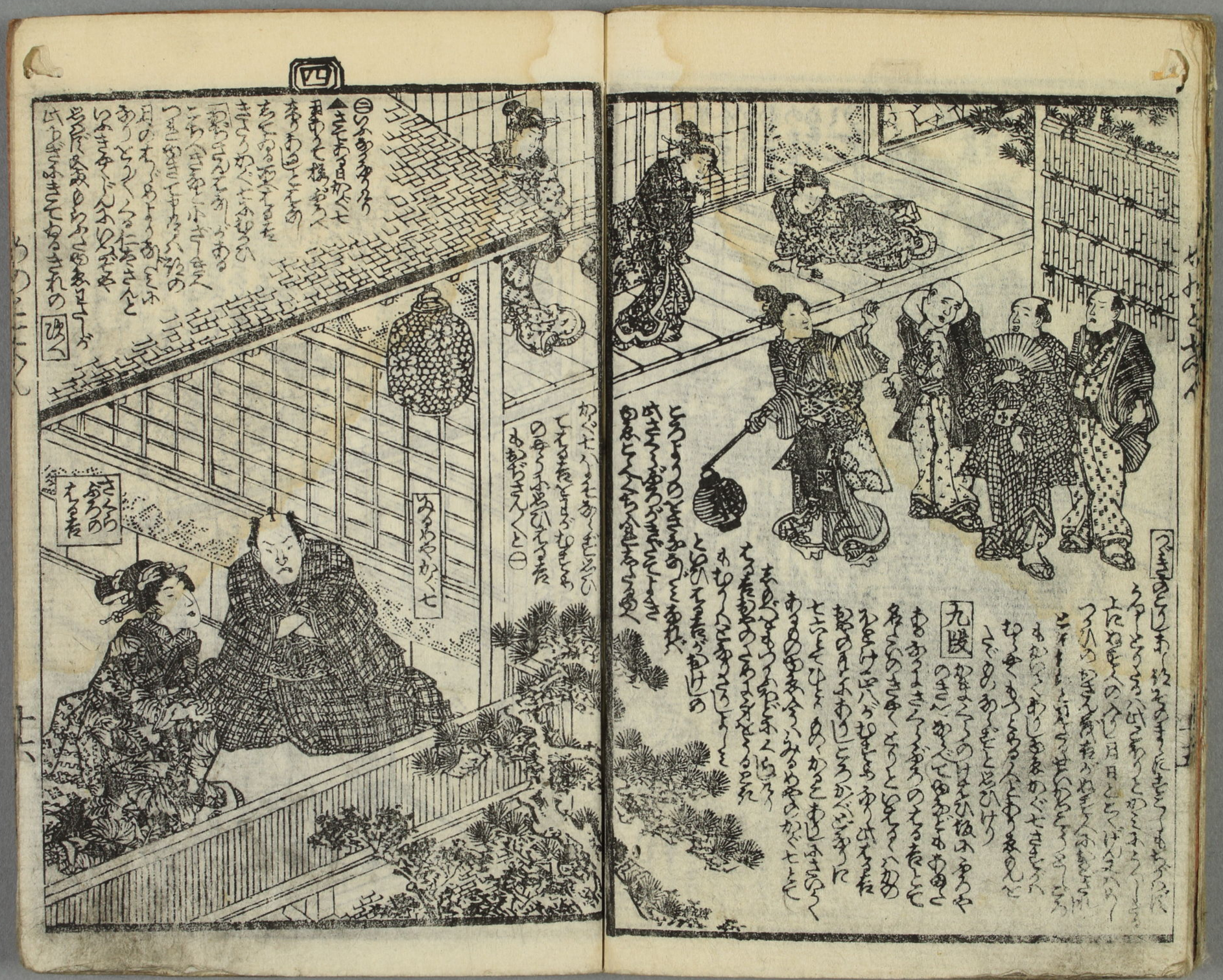
七段　ゆきの町人あそびのむかしをあらためる

おもへばこまかに繁昌とかきはじめ
源氏物がたりはさらなりそのころの
ものがたりもことごとくしつかりとかえ
さまざまきえんあれどのなかーとり
ありしはかりにあらずちかきまくらにも
まさるものの多くはかりしかれとけいこ
ごのもの十たのおきやうふこのくもの
まけるハこまきやうもしかれとけいこ
さらにうくもちがをにろくさるあり
まあるものかれくらあり多くハ今
きとうゆく物後ゆもあり多く
けいこもの仙人ごとのくさへ
おそもく久の先生とに
こんかいろきーやとり
うちてあいきあくも目とおどろくしあり多くも
あやーまそなうれくくはおとそそ
ちまくといーはりもやひけそうで今
あはとばあり多くもらふはは又ごけへと
ふはとばいっえんありけり

孫七

二八

春吉
仁太


九段
さくらもちのもるを
みるやかぐ七

かぐ七
ゑとけ
四八

十段

わるだくみ四八はけやまめとこの日どくとく
たんなんだまくやちとくどくて
やどくろうあーふくろうとたまごのおひとう
ぐらーのくくやまもとかぐ七はたまごのくつけ
さのふのふのとぐろねくまバ・四八「いろふもねも
まわまーとそのことけんとをひるるたにからひく
三ぬとのみ田やのぐんさうちくくぬ人まげ」とた
三十ぬのつるひふこのまれもの人をとうひとう
するたらくまちるさいぬ人をとくちやてらたひ
とくまーのとかさうたれバ・かく七「その人らうの
かれ四八ちてるくく・四八「ねるぐくとたられこまく
そのつがぬ人をどまーぐつんぐれバ
ちくむくがとれさられいろの白い
小二ゲ・かぐ七「とくく人らう
あれとのちとふ揚ぐろ人
いってかのちらうを
はまくく
ちれれ
ちら
まくハ
ちくひ
のつの
あはを

三十人ぬの内
人をぬ人ろ人
つるひのせろ人
きらくく四八
ちきふよろこび
かくしがろふやひ
くろびちどのろ
ここまらの四人まかど
二くろあーぐくく揚ぐろ人
ちまあらけり

十段

かくしかぐしきくく
ふろくいうあーに
やるふくるたがきちくに
いふハくちうくのあやきくを
ものかりをまふつけ
するたがておを
四八とつれきくて
仁をとをんもるあくと
いふいきくをきくをて女
ふやうまをくろれ

次く

仁太

かぐ七
そるた

仁吉
さる友が
ものいつハ

かぐ七
さる友

八十一歳 京山作

豐國画

嘉永三庚戌歳新鐫目録

山東庵京山作 繪圖見西行 十編 一陽齋豐國画	樂亭西馬作 關太郎終鹿談話 初編二編 一雄齋國輝画
山東庵京山作 阿組総三郎琴聲美人錄 四編五編 一陽齋豐國画	樂亭西馬作 前太平記四天王權輿 四編五編 一雄齋國輝画
山東菴京山作 教訓乳母草紙 七編八編 一陽齋豐國画	柳下亭種員作 破軍太郎七星奇談 初編二編 香蝶樓豐國画
笠亭仙果作 妹背の栞山七ツ組入子枕 初編二編 一勇齋國芳画	東都芝神明前三島町角 喜鶴堂 佐野屋喜兵衛板

へ13
4450
7